

ライムとは身振りや手振りや気持ちで気持を伝える動作のこと。台詞のないバレエでは物語の進行に欠かせないものです。3幕でジークフリートが愛を誓うシーンなどは、ライムが非常に重要な役割を果たしています。

第1幕 王宮の前庭

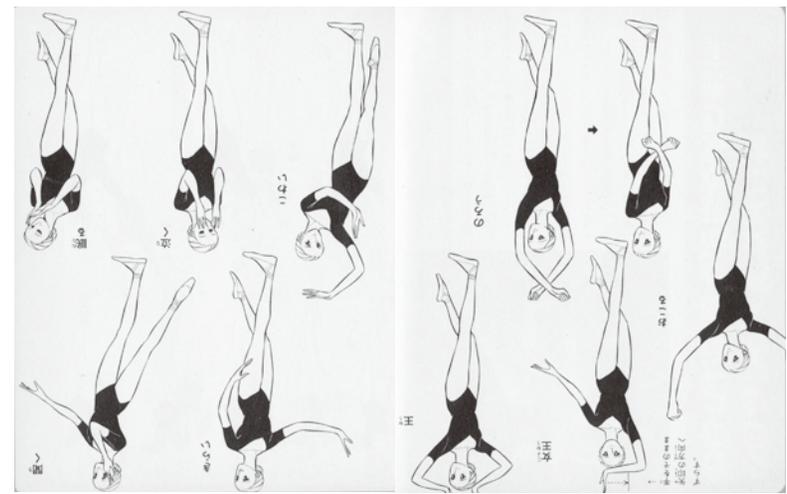
今日はジークフリート王子の21歳の誕生日。お城の前庭には友人が集まり祝福の踊りを踊っている。酒を酌み交わし、家庭教師は酩酊してしまう。そこへ王子の母が現われ、明日の舞踏会で花嫁を選ぶように言われる。まだ結婚したくない王子は物思いにふけり、白鳥が住む湖へ狩りに向かう。

第2幕 静かな湖のほとり

泳ぐ白鳥に月の光が注ぐと、白鳥はたちまち娘たちの姿に変わる。中でもひとときわ美しいオデット姫は、悪魔ロッドバルトに呪いをかけられ、姿を変えられてしまっていたのだ。オデットに出会った王子はたちまち彼女に惹きつけられる。彼女は夜だけ人間の姿に戻ることができ、この呪いを解く方法は、まだ誰も愛したことのない男性に愛を誓ってもらうこと。それを知った王子は明日の舞踏会に来ようオデットに言う。

第3幕 王宮の舞踏会

世界各国の踊りが繰り広げられているところへ、悪魔の娘オディールが登場。王子は彼女をオデットだと思い花嫁として選ぶが、それは悪魔が魔法



バレエの中で先生がライムのクイズを出します。自分でやってみながら覚えよう。

チャイコフスキー最初のバレエ作品にして、世界で最も公演回数が多いバレエの一つ。1877年にモスクワのポリショイ劇場バレエ団によって初演されたが、当初は不評でほとんど再演されなかった。そして18年後の1895年、マリンスキー劇場バレエ団が大幅な改訂を加えて蘇演。人気を博し、現在まで主要なバレエ作品として残っている。蘇演時に振り付けされたプティパ=イワノフ版を基本として、ヌレエフ版やバランシン版など様々な演出が存在する。今回の公演は英国ロイヤルバレエ団などが採用していたウエストモースランド版。政治的な事情で祖国・ソ連では大幅な改訂が加えられたが、英国に渡って残ったウエストモースランド版はプティパ=イワノフ版に非常に近く、原典に忠実と言える。

オデット (白鳥) 青山 季可 (写真左)
 オディール (黒鳥) 菊地 研 (写真右)
 ジークフリート王子

悪魔ロッドバルト、王妃、
 家庭教師など

